

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

ハートフル・ワード (心からの言葉)

公認会計士・税理士
齊藤栄太郎事務所

TEL 03-6206-8010
FAX 03-3254-0118

経営者への活きた言葉

リーダーは意見・立場の異なる相手と真正面から向き合おう

大橋 洋治 (ANAホールディングス相談役)

1. 塩野七生著「ローマ人の物語」には、カエサルをはじめ、カミルスにスキピオ、スッラなど様々なタイプの英雄が登場する。私はこの物語をトップのあるべき姿を考える組織論の指南書としても大いに参考にしたものだ。特に印象深かったのがリーダーの採点基準。塩野は「知力」「説得力」「肉体上の耐久力」「自己制御力」「持続する意思」という5つの尺度でその資質を評価した。これは現代組織のトップを評価する上でも通用する。
2. 中でも私が特に重要だと考えている尺度の一つが「説得力」である。企業のトップにおける説得力というと、真っ先に思い当たるのが社内への説明責任だろう。もちろんそれは不可欠だ。ただ会社という同じ組織で共通の利害や価値観、文化を共有している者に説くことは誰にでもできる。それではトップたり得ない。カエサルは敵や意見・立場を異にする者たちをも説得した。これが真のリーダーの仕事だろう。
3. それは本当に骨が折れ、不毛だと感じることも多い。ただそのプロセスの中でいかに合意点を導き出すかがリーダーの腕の見せどころだ。企業も国家も、リーダーたるものはただ「会話」を交わただけで「対話」をしたつもりになってはいけない。意見が合わない人たちを相手にした時こそ、絶大な説得力を発揮しなくてはならない。少なくともそうした場面から逃げず、真正面から向き合おうとする姿勢が必要だ。

(参考:「日経ビジネス」2022年10月10日号)

経営者のための理念・哲学

君子は担として小人は怯えている

田口 佳史 (東洋思想研究家)

1. 「君子」、立派な人間は「担」とは「平なり」とあるように、平静な心の持ち主で、心の動揺というものがない。何故ないのかといえば、天命を知り、天理の何たるかをよく承知しているからです。自己の天命を果たすことに一路邁進しているから、気持ちがゆらぎ、ぐらつくことがない。天理、天然自然の道理、人の行うべき正しい道を知っているから、心が定まっている。心がこの様であるから、容貌も「蕩蕩」、のびのびと、ひろびろとしているのです。冬の寒い日に、日向ぼっこでもするようなもので、こちらの心もほかほかと暖かになるような人物です。
2. 小人はどうかといえば、「長なえに」、いつまでも変わらずに、「戚戚」、こせこせと何かに怯えるようだと知っているのです。どうしてそうなるかといえば「疚しい」ことがあり、それが心の憂いと、懼れをもたらしているというのです。

(参考:「致知」2022年12月号)

経営者のための危機管理

世界から見れば「そろそろこれまでだ」

鈴木 貴博 (百年コンサルティング代表)

1. 昨秋ごろにリベンジ消費という言葉が騒がれ始めましたが、その後、コロナ第6波、第7波による経済停滞が起きていたため、日本人の感覚的には「リベンジ消費はまだこれからだ」という気分かもしれません。しかし問題は、外国人のリベンジ消費意欲です。過去1年間、日本に行けないということでアジア人は近隣諸国で、欧米人はイビサ島 (スペイン) やバハマ、米フロリダなどでリベンジ消費を堪能したでしょう。
2. とはいえ、日本への旅行の解禁を心待ちにしていた人たちは、日本に来れば多額のお金を使ってくれるとは思いますが、ただ心配なことに、十分な数の観光客がリベンジ消費に戻ってくるかどうかは分かりません。いよいよ欧米経済がリセッション (景気後退局面) に向かいそうだからです。つまり、日本人が「いよいよこれからだ」と思っても、世界から見れば、「そろそろこれまでだ」かもしれません。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2022年10月22日号)

古典に学ぶ

人はただ人たるの務を全うする

(解説) 現代の人の多くは、ただ成功とか失敗とかいうことのみを眼中に置いて、それよりモット大切な天地間の道理を見ていない。かれらは実質を生命とすることができなくて、金銭財宝を主としているのである。人はただ人たるの務を全うすることを心掛け、自己の責務を果し行い、もって安んずることに心掛けねばならぬ。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」): 国書刊行会